

市民の参加と協働を進める 多様なコーディネーション 実践研究集会2022

越境×対話×共創

コーディネーターがオンラインで
経験と知見を共有&習得する
“学びのプラットフォーム”

Online (Zoom)

2022.2.23 水・祝 - 2.27 日

参加費

一般参加：6,000円

2人目割引：5,500円 / JVCA会員：5,000円

申込締切

2022.

2.4 金

認定特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会

市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会 実行委員会

開催趣旨

1994年にスタートし、1996年から毎年開催してきた「全国ボランティアコーディネーター研究集会(JVCC)」。

2021年から、対象とする分野や参加者を広げ、「市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会」に衣替えをして、今回、2回目の開催となります。

主催の日本ボランティアコーディネーター協会は、2001年の設立時より、ボランティアコーディネーターの「ネットワークの確立」「専門性の向上」「社会的認知の促進」を掲げてきました。そして、現在は、「ボランティアコーディネーションの機能を幅広く普及させる」ことにも力を入れています。これは、これまで積み重ねてきた「市民の参加意欲と行動力を引き出し、人や組織をつなぐコーディネーションの機能」が、現代社会の様々な課題、領域、地域で重要であることを確信したからにはほかなりません。福祉、医療、保健、多文化共生、環境、教育、災害など実に多様な場面で、参加を進めるコーディネーターの実践は広がっています。今回も前回に引き続き、「それぞれの領域を超えて出会い【越境】、話し合い【対話】、協働して新たな課題解決に向けた方策づくり【共創】」をテーマに開催します。

様々な分野で活躍する皆さまが、それぞれの知識や経験を持ちよることによって、新たな課題解決の方策が見えてくるはずです。この集会在、全国の仲間とともに、「参加と協働」をさらに進める機会となることを願っています。

市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会 実行委員長 鹿住 貴之
(JUON(樹恩)NETWORK)

参加対象

- 地域や組織で人や団体のコーディネーションに携わる方
- 市民の参加や協働の場をつくるコーディネーション実践に関わる方
- 異なる分野とつながり、社会課題の解決をめざしたい方

開催概要

日時 2022年2月23日(水・祝) 14:00~16:30 ※26日(土)10:00までオンデマンド配信
2月26日(土) 10:00~16:50
2月27日(日) 9:30~14:30

参加費 一般 6,000円 二人目割引*5,500円 JVCA正会員・準会員 5,000円
*同組織の2人目以降の方へ割引があります。

方法 Online (Zoom)

視聴デバイス パソコンでの視聴を推奨いたします。タブレット、スマートフォン等での参加も可能ですが、ブレイクアウトセッションの参加や資料の閲覧において不具合が出る場合がありますので予めご了承ください。また、いずれもスピーカー付のものをご活用ください。
※一人1デバイスでご参加ください。

配信ツール Zoomを活用します。分科会においてブレイクアウトセッションを実施いたしますので、最新のバージョンにアップデートをお願いいたします。

その他必要なもの マイク(ヘッドセット推奨)、カメラ(交流や意見交換のため推奨)

インターネット接続

ブロードバンド有線(推奨)、Wi-Fi(推奨)、またはワイヤレス(3Gまたは4G/LTE)

回線速度を事前にチェック! カメラONの場合10Mbpsを推奨します。(参照サイト:<https://fast.com/ja/>)

スムーズな視聴、ご参加のために

- *Wi-Fi ルーターと接続している機器をなるべく減らす。
- *Wi-Fi ルーターを見通しの良い場所に設置し、電波を発する家電等の近くに置かない。
- *スマホ端末のバックグラウンド起動中のアプリを最小限としましょう。

主催 認定特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会
市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会 実行委員会

タイムスケジュール

2.23 水・祝

2.26 土

2.27 日

9:00
9:30
10:00
10:30
11:00
11:30
12:00
12:30
13:00
13:30
14:00
14:30
15:00
15:30
16:00
16:30
17:00
17:30
18:00
18:30
19:00
19:30
20:00
20:30
21:00



[A] 分科会

10:00~12:10

放課後タイム

[C] 分科会

9:30~12:10

放課後タイム

開会

オープニング

放課後タイム

26日10:00まで
オンデマンド配信

[B] 分科会

13:30~16:30

放課後タイム

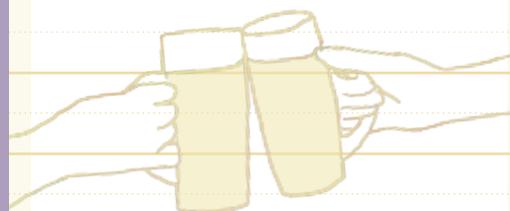
クロージング

JVCA通常総会

2.25 金

参加者交流会

前夜交流会



2.23
水・祝

オープニングセッション

「越境」から生まれる、みんなでつくる社会

国家と市場、2つの強いシステムが生活のすみずみまで浸透した現代の私たちの暮らし。それは便利な反面、孤立を生み、人が主体的に生きること、他者とともに自ら社会をつくることを困難にするという側面を持ちます。コロナ禍は、こうした現状をあぶりだし、あらためて「人が人のつながりの中で生きていくこと」の意味を問い直す機会となりました。

この全体会では、システムにくるることのできない人々の参加と協働による活動の意味と、それを生み出すコーディネーションの価値と可能性について、人類学の視点と地域の実践から考えます。

どうすれば私たちは、他者との関係を紡ぎ直し、自由に、豊かに生きていくことができるでしょうか。キーワードは「越境」。



松村 圭一郎さん 岡山大学文学部准教授

1975年熊本生まれ。岡山大学文学部准教授。専門は文化人類学。エチオピア農村部や中東の都市部でフィールドワークを行い、所有と分配、海外出稼ぎ、市場と国家の関係などについて研究。『うしろめたさの人類学』（ミシマ社）で第72回毎日出版文化賞特別賞。著書に『くらしのアナキズム』（ミシマ社）、『はみだしの人類学』（NHK出版）、『これからの大学』（春秋社）、『所有と分配の人類学』（世界思想社）など、共編著に『文化人類学の思考法』（世界思想社）、『働くことの人類学』（黒鳥社）。

松田 妙子さん

せたがや子育てネット
代表理事



渋谷区出身。工務店を営む祖父母と同居し、「まちのよろず相談の場」を見て育つ。こどもの城で働いたのち、結婚して夫の転勤先の三重県津市にて第1子が5ヶ月の時、「赤ちゃんサロン」を開催。「あいま通信」発行。2001年世田谷にて、子育て支援グループamigoを立ち上げて、産後家庭にアウトリーチ（家事援助）と常設の居場所を開始。2004年区内の団体ネットワークをベースにNPO法人せたがや子育てネットとして法人化。コロナ禍では「せたがやこどもフードパントリー」活動に取り組んでいる。

西川 正さん

ハンズオン!埼玉
常務理事



学童指導員、出版社などを経て、2005年、ハンズオン埼玉を設立。「おとうさんのヤキイモタイム」キャンペーンをはじめ、さまざまな協働・市民参加型のまちづくりのプロデュースに関わる。地元では、PTA、民生委員、自治会、学童保育などにかかわり地縁と志縁の間を行き来しつつ、様々な実践と提案を重ねる。大妻女子大学等で非常勤講師。NPO法人あげお学童クラブの会理事、等。著書に『あそびの生まれる場所「お客様」時代の公共マネジメント』他。共著に『オンラインのあたたかい場をつくる自主研究ノート』等。

23日(水) 14:00~16:30には参加ができないという方、何度でも聞きたいという方、ご安心ください！
オープニング全体会は、26日(土) 10:00までオンデマンド配信を実施しております。

任意
参加

まだまだ話したりない方は…

放課後タイム

(希望者のみ・出入自由)

各プログラムの終了後には、
20分~30分程度の放課後タイム！

ゆる〜く会話や質問を続けられる時間です。

講師にも参加いただける場合がございます。

2.25
金

前夜交流会

(任意参加・出入自由)

分科会を翌日に控えた25日の夜、
本番前から盛り上がりましょう！

スタートは19:00です。

詳細はWebサイトをご覧ください。

2.26
土

参加者交流会

(任意参加・出入自由)

A・B分科会を終え、夜は楽しい交流タイムを過ごしましょう！
みなさまの参加をお待ちしております。
スタートは17:30です。

分科会案内は
次ページから！

2.27
日

クロージングセッション

明日からのコーディネーションのための 振り返りと分かち合い

越境×対話×共創をテーマに過ごした3日間のまとめの時間です。新たな学びや気づき、感じたことを振り返り、分かち合いましょう。明日からのコーディネーションの糧となるようお互いの成果と意思を確認し合います。

申込

①お申込

下記Webサイトのフォームからお申込ください。 ※右記QRコードも参照

CONFE2022[Webページ] <https://jvcc2022tokyo.jimdofree.com/>

*郵送またはFAXでのお申込をご希望の方は、下記事務局までご相談ください。

*分科会A, 分科会B, 分科会Cはそれぞれのセッションから1つを選ぶ選択制です。

各セッションは先着順となります。それぞれ第1希望/第2希望/参加しないをお選びください。

*二人目割引は同組織内の二人目以降に適用され、参加費から500円を割引するものです。

必ず一人目の欄にお申込済みの同組織の方のお名前を記入してください。

*申込締切…**2022年2月4日(金) 先着順**

※締切日前に定員に達した場合は、その時点で締切とさせていただきますので、お早めに！

②参加費のご送金

参加申込み受付け後、ご登録のメールアドレスにメールにて入金手続きのご案内をお送りしますので、参加費等をお振込みください。

一般 6,000円、二人目割引*5,500円、JVCA正会員・準会員 5,000円

*同組織の2人目以降の方へ割引があります

*参加費等の入金をもって、正式な申込といたします。

*ご入金後は原則として返金できませんのでご了承ください。

*集会までにJVCAに入会されると、会員参加費との差額1,000円をキャッシュバックいたします！

○参加申込に関する個人情報の取り扱いについて○

参加申込でいただいた個人情報は、本研究集会の開催に必要な連絡調整、担当企画委員・講師への告知、今後の本研究集会と日本ボランティアコーディネーター協会の事業のご案内のみの目的で使用します。

*ただし、参加者の都道府県、所属団体、参加分科会などの基本情報は登壇者・運営スタッフに共有いたします。参加者のみなさんにも希望があれば「参加者名簿」を閲覧できるようにする予定です。

*参加される分科会によっては、本要項に明記されていない場合でも、事前アンケートをお願いしたり、事前にメーリングリストへの参加をお願いすることがあります。

③当日のZoom ID 等のお知らせ

ご登録のメールアドレスにメールにてお知らせいたします。

問い合わせ

市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会 実行委員会事務局

WEB:<https://jvcc2022tokyo.jimdofree.com/>

E-mail:coco@jvca2001.org Tel:03-5225-1545 FAX:03-5225-1563

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2丁目13番地 未よしビル別館30D



分科会一覧

A分科会、B分科会、C分科会より参加したい分科会を一つずつ選択ください。

日程	NO	メインテーマ
2.26 土 10:00 ~12:10	A-1	福祉×地域～ごちゃまぜの世界～
	A-2	ことしもやるぞ!「生協×社協=競争?共創?」連携で地域福祉を進めよう
	A-3	多文化共生×地域～地縁組織での取組から～
	A-4	若者×社会変革 Z世代のリーダー達に学ぶ
2.26 土 13:30 ~16:30	B-1	大規模イベントでのボランティアコーディネーション
	B-2	「難民」と支え合い、学び合う
	B-3	もっと楽しくまちづくり、地域を元気にしたい人全員集合!! ボランティアコーディネーション力を「地域運営組織」の運営に活かすには
	B-4	地域包括ケア、地域共生社会における市民と専門職との協働
	B-5	わがごとの災害
	B-6	団体の岐路に立ちあう中でのコーディネーターの関わりとは?
2.27 日 9:30 ~12:10	C-1	[つなぐ] ~制度のスキマを埋める~
	C-2	[あたためる] あたためい場づくりのコーディネーション
	C-3	[提言する] ~市民の声を届ける~
	C-4	[問いをたてる] ジブンゴトの切実な問いが対話と共創をうむ
	C-5	[学ぶ] 活動に埋め込まれた「学び」の実践を振り返る

分科会案内

2.26 土 10:00~12:10

A-1

定員:45名

対象:関心がある方ならどなたでも

福祉×地域 ~ごちゃまぜの世界~

誰もが当事者として参画できるコーディネートを目指して

制度に則り、地域の中では「高齢者の」「認知症の」「子どもの」など、対象者別の居場所は数多くあります。一方、地域住民による対象者を定めないボーダーレスな居場所も増えてきているように感じます。とはいえ、福祉は本来、全ての人が対象で、当事者であるはずですが、その実感は薄いのではないのでしょうか。

本分科会では、多様性社会創造に向け、自己、他者との垣根を超え、市民が参画できる環境をコーディネートしている方の発表と、参加者の立場からの学びを、分科会内でごちゃまぜにし、対話による気づきを促すことを目指します。

事例発表者 宮田 隼さん (コミュニティハウス「ひとのま」代表)

ファシリテーター 神谷 牧人さん (株式会社アソシア 代表取締役)

[担当] 佐藤正枝 (日本社会福祉士会) / 仙波愛優佳 (和光市社会福祉協議会) / 宮城智広 (鶴ヶ島市社会福祉協議会)

対象：関心がある方ならどなたでも

A-2

定員：45名

ことしもやるぞ！「生協×社協＝競争？共創？」 連携で地域福祉を進めよう

組織と組織をつなぐコーディネーションのコツ

「生活協同組合」は消費者の助け合いの組織です。食や子育て、介護から、近年、地域づくりへの参加も強めています。一方、「社会福祉協議会」は地域の福祉活動をすすめてきましたが、今後は地域の多様な組織の協働がさらに必要となってくるでしょう。昨年は生協と社協の「越境、対話、共創」をテーマに、窓口の担当者同士のコミュニケーションと相互理解による事例を紹介しましたが、組織と組織が連携して初めて具体的なアクションが起こせます。この分科会では、組織間のコーディネーションをテーマに参加者とともに考えます。

事例発表者 徳永 雄大さん（長野県社会福祉協議会まちづくりボランティアセンター 主任）

中谷 隆秀さん（長野県生活協同組合連合会 事務局長）

小藪 真彦さん（西宮市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター）

藤井 智生さん（生活協同組合コープこうべ 第2地区本部 マネジャー）

ファシリテーター 文珠 正也さん（日本協同組合連携機構 連携推進マネジャー）

[担当] 熊谷紀良（東京ボランティア・市民活動センター）/ 薦直宏（日本生活協同組合連合会）

A-3

定員：45名

対象：地域で外国人住民とのつながりを築こうとしている方/多文化共生に興味のある方

多文化共生×地域 ～地縁組織での取組から～

外国人住民とつながり「ともに暮らす」ためのコーディネーション

多くの外国人が、ご近所さんとして暮らすようになりました。日本人・外国人の枠を超え地域でともに暮らすには、ことばや文化、生活習慣の違いによる障壁を取り除き、顔の見える関係をつくるのが大事と言われます。そのためにできる取組は何でしょうか？そもそも「ともに暮らす」とは？団地や町内会などの地縁組織で、外国人を含めた住民同士の相互理解・コミュニケーションの促進、防災などに取り組む事例を元に、市民の参加と協働を促し、ともに暮らすための身近な関わりを生み出すコーディネーションについて、一緒に考えましょう。

事例発表者 岡崎 広樹さん（芝園団地自治会 事務局長）

今野 均さん（仙台市片平地区まちづくり会 会長）

コメンテーター 西川正さん（ハンズオン!埼玉 常務理事）

進行 藤井美香さん（横浜市国際交流協会）

菊池哲佳さん（多文化社会専門職機構）

対象：関心がある方ならどなたでも

A-4

定員：45名

若者×社会変革 Z世代のリーダー達に学ぶ

イマドキのコーディネーションとは？

「自分達の気づき」をもとに、「自分発」で行動し始めた若者達に、私達はどんな応援ができるのでしょうか？社会に対してアクションを起こしている若者達から話を聴きながら、その事例を通して、「若者が動き出す原動力となるものは何か？」、「若者達の間で行われるコーディネーションはどのようなものか？」、「動き出そうとする若者達の壁になる大人、応援になる大人」などについて、皆さんとともに考え、今後のコーディネーションについて考える機会にしたいと思っています。

事例発表者 谷口 歩実さん（#みんなの生理 共同代表）

須藤 あまねさん（環境パートナーシップオフィス等 運営委員/地方創生SDGs

ユースアンバサダー）

進行 竹田 純子さん（龍谷大学ボランティア・NPO活動センター ボランティアコーディネーター）

[担当] 開澤裕美（中央大学ボランティアセンター）/ 鹿住貴之（JUON（樹恩）NETWORK）

B-1

定員:30名

対象:大規模イベントのボランティアコーディネーションに関心がある方ならどなたでも

大規模イベントでの ボランティアコーディネーション 市民の創意を生かし地域にレガシーを残すカギは何か?

近年、ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックなどのスポーツイベントはもとより、博覧会などの大型イベントでもボランティア参加が広がっています。

単なるマンパワー対策という面を超えて、ボランティアが創造的にイベントを演出し、個々のトラブルなどにも丁寧に対応する重要なスタッフとなり、さらに一度限りのイベントながら、その終了後、地域の活性化を進める主体となるために何が必要なのでしょうか? 実際にボランティアコーディネーションにあたったお2人の実践を事例と解説を元に、今後のあり方を考えます。

進行 足立 陽子さん (東京都人権啓発センター 専門員)

文珠 正也さん (日本協同組合連携機構 連携推進マネージャー)

ミニ講義 早瀬 昇さん (大阪ボランティア協会 理事長/JVCA運営委員)

事例発表者・コメンテーター 神野 幹也さん (東京2020大会組織委イベントサービスマネージャー/ラグビーW杯
2019組織委ボランティアマネージャー兼観客サービスマネージャー)

平田 隆之さん (東京2020みんなの都市ボラ大学アドバイザー/山口ゆめ花博2018
県民参加支援ディレクター/市民プロデュース理事長)

B-2

定員:30名

対象:多様な背景のある人々をむすぶ活動に関わっている方/関心がある方ならどなたでも

「難民」と支え合い、学び合う 固定的な関係性をずらすコーディネーション

日本在住のミャンマー出身者のなかには、難民的背景のある人、帰ることのできる国をもたない人々もいます。この人たちを主な対象に日本語学習支援や生活サポートを行う、VECという市民団体があります。学生や社会人等様々な人の参画を得て、難民当事者とともに運営しています。ここでは、集う人すべてで対等な関係を築けるよう、「支援する」「支援される」という固定的な関係性をずらすコーディネーションが意識されています。分科会では難民当事者や事例発表者等の対話をもとに、「ずらし」のコーディネーションについて皆で考えます。

講演者 チョウチョウソーさん (Villa Education Center (VEC) 副代表理事/ミャンマー出身・難民認定者
/NHK国際放送 アナウンサー)

事例発表者 吉村 洋子さん (同事務局長・日本語教室教師)

五嶋 友香さん・澁谷 こはるさん・東樹 美和さん・西村 愛さん (同日本語活動ファシリテーター
/オンライン教科学習支援活動リーダー)

コメンテーター 青柳 りつ子さん (アオヤギ行政書士事務所 行政書士/社会福祉士)

遠山 昌子さん (生き方のデザイン研究所 代表理事・コーディネーター)

ファシリテーター 松尾 慎さん (VEC 代表理事/東京女子大学)

[担当] 鹿住貴之 (JUON (樹恩) NETWORK) / 藤井美香 (横浜市国際交流協会)

B-3

定員:30名

対象:地域運営組織のスタッフ/地域・組織を元気にしたいという方
地域運営組織等を支援する方/ボランティアコーディネーター/関心がある方ならどなたでも

もっと楽しくまちづくり、地域を元気にしたい人全員集合!! ボランティアコーディネーション力を 「地域運営組織」の運営に活かすには 市民一人ひとりの“出番”を作り主体的にかかわるまちづくり

地域の課題を地域で発見し、地域で解決していく仕組みをつくるためには、市民一人ひとりの“出番”を作り主体的にかかわっていくまちづくりを進めるという、まさに“ボランティアコーディネーション”の手法が必要とされています。市民が自分たちの地域で起こることを「自分ごと」と捉え、市民自身で地域課題を解決していけるように「地域運営組織」を支援する明石コミュニティ創造協会の活動。「自分でつくるってのいい!」というきっかけの場をつくり続ける実践事例をもとに、新たな視点での「地域運営組織」の運営について学びます。

講師 柏木 登起さん (明石コミュニティ創造協会 常務理事兼事務局長/シミンズシーズ 代表理事
/コミュニティ・プランナー)

[担当] 栗原穂子 (ぼらんたす) / 佐藤美恵 (ぼらんたす) / 西川正 (ハンズオン!埼玉)
/ 橋詰勝代 (高島市社会福祉協議会) / 藤掛素子 (明治大学ボランティアセンター)

B-4

定員:30名

対象:スクールソーシャルワーカー/地域包括支援センター職員/相談支援事業所職員
生活支援コーディネーター/ボランティアコーディネーター等/関心がある方ならどなたでも

地域包括ケア、地域共生社会における 市民と専門職との協働

個を支えるチームとして成熟していくために

地域包括ケア、地域共生社会は専門職のみで実現できるものではなく、地域に住む市民との協働が欠かせないものといわれています。平成18年地域包括支援センターの創設とともに、地域包括ケアの実践が各地で進められ、ひとりの人の地域生活を市民と専門職がチームで支える実践も展開されていますが、その実状は様々です。

この分科会では、個を支えるチームとして市民と専門職との協働がどのように機能しあうとよいのか、実践報告をもとに見つめ、よりよい協働のあり方についてともに考える場を創りたいと考えています。

実践報告者 長田 美智留さん (南魚沼市教育委員会 弥彦村教育委員会所属
スクールソーシャルワーカー(社会福祉士))

佐藤 正枝さん (日本社会福祉士会 地域包括ケア推進委員会
委託型地域包括支援センター 管理者/認定社会福祉士(高齢分野))

コーディネーター 山本 繁樹さん (立川市社会福祉協議会 地域活動推進課長)

[担当] 疋田恵子(杉並区社会福祉協議会)

B-5

定員:30名

対象:社会福祉協議会職員/行政職員/大学関係者/災害支援NPOやボランティア団体など
災害支援活動に関心のある方

わがごとの災害

いつ被災者になるか分からない時代の
「災害支援コーディネーター」の役割とは?

毎年のように各地で災害が発生し、いよいよ被災は他人事では済まされなくなってきました。避難所運営や外部ボランティア受け入れなど、被災した地域の住民が災害にどのように向き合えるかが今後の被災地における災害支援活動の鍵となってきます。いつ被災者になるか分からない時代、私たちは一層被災者の目線に立ち、そこで起こるさまざまな課題の解決を進めなければなりません。災害被災地に寄り添うコーディネーションのあり方、そしてそこから見えてくる自助・共助・公助のあり方を学び、共有しましょう。

事例発表者 園崎 秀治さん (オフィス園崎 代表)
明城 徹也さん (全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) 事務局長)
原 盛輝さん (熱海市社会福祉協議会)

ファシリテーター 杉浦 健さん (共働プラットフォーム)

B-6

定員:40名

対象:関心がある方ならどなたでも

団体の岐路に立ちあう中での コーディネーターの関わりとは?

社会の変化や個々の事情によって、様々な場面で市民団体が岐路に立たされることは多々あります。特にコロナ禍の現在、市民団体の多くがその矢面にいる中、新たな形を変えたり、団体を閉じる決断をする場合もあり、次のステップに行くためには、様々な決断をする必要があります。そんな中、サポートする立場のコーディネーターは、どのような視点で関わっていくべきでしょうか?この分科会では、市民主体のボランタリーな団体の始めから終わりまでの形を改めて認識し、そこに介在しているコーディネーションの在り方に考えていきます。

事例発表者 調整中 ※岐路に立つ団体に寄り添うコーディネーターの事例をもとに学び合いたいと思います

コメンテーター 小原 宗一さん (北区社会福祉協議会)
熊谷 紀良さん (東京ボランティア・市民活動センター)

[担当] 開澤裕美(中央大学 ボランティアセンター)

C-1

定員:36名

対象:関心がある方ならどなたでも

[つなぐ] 制度のスキマを埋める

断らない相談支援の現場で、日々さまざまな相談に対応する中から見える相談者の特徴的な状況として、生活のしづらさを抱え、解決をあきらめ、地域社会や家族から孤立している状態があげられます。複合化した問題は制度の狭間にあることも多く、自組織のもつ機能だけで支援するには限界があり、「つなぐ」ことが重要な役割を果たします。この分科会では、「つなぐ」をキーワードに、どう「つなぐ」のか、また、「つなぐ」ために必要なことは何か、「孤立をつくらない」コーディネーションの役割を考えます。

登壇者 朝比奈 ミカさん (千葉県中核地域生活支援センターがじゅまる センター長)

つなぎ手 熊谷 紀良さん (東京ボランティア・市民活動センター)

三田 響子さん (相模原市社会福祉協議会)

武藤 祐子さん (千代田区社会福祉協議会)

C-2

定員:36名

対象:関心がある方ならどなたでも

[あたためる] あたたかい場づくりのコーディネーション 安心して失敗ができる分科会

オンラインの“チェックイン”にアイスブレイクが隠れている!?それが場を和ませる要素!雰囲気づくりは何気ない雑談から醸し出されます。視覚・聴覚満載の本分科会では、オンラインの世界で、頭ではなく心を動かすためには何が必要でしょうか。その心のあたため方を、本分科会で感じ取りましょう。対面でもオンラインでも、多少の失敗を笑い合えるあたたかさ、安心して失敗できる環境は重要です。そこには“無駄”と思われる事柄も含まれていたりします。そのコーディネーションを、密にならずに、密に皆で考えましょう。

企画 ハンズオン!埼玉&愉快的仲間たち

「もちより音楽カフェ」「みんなで七輪ピック」などオンラインでのユニークな交流の場をつくってきたNPO法人ハンズオン埼玉(『オンラインのあたたかい場づくり自主研究ノート』を発行)のメンバーに、ステキな仲間を加えてお送りするスペシャルチームです。

[担当] 仙波愛優佳(和光市社会福祉協議会)/竹田純子(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター)
/西川正(ハンズオン!埼玉)/宮城智広(鶴ヶ島市社会福祉協議会)

C-3

定員:36名

対象:提言活動を学びたい方/当事者の声を行政に働きかけたいと思っている方

[提言する] 市民の声を届ける

市民から寄せられる困りごと相談のなかには、現行の制度や仕組みでは対応が難しいものが含まれます。想いのあるボランティアによって支えていくことに加え、行政に提言を行い、制度や仕組みをつくっていくことも大切です。

しかし、提言活動のやり方を学ぶ機会は少なく、活発に行われていません。この分科会では、提言活動の基礎的な方法を学びます。加えて、先駆的な事例を知ることで、各地域での取り組みにつなげていきます。

講師 関口 宏聡さん (セイエン 代表理事)

事例発表者 片岡 一樹さん (尼崎市立ユース交流センター センター長)

能島 裕介さん (尼崎市理事(子ども政策担当)・教育委員会事務局参与)

[担当] 上田英司(日本NPOセンター)/文珠正也(日本協同組合連携機構(JCA))

C-4

定員:36名

対象:さまざまな背景をお持ちのみなさん/さまざまな分野のコーディネーター
★切実な問いをお持ちの方 大歓迎!

[問いをたてる] ジブンゴトの切実な問いが対話と共創をうむ

「問い」はさまざまな行いの出発点です。個や集団のなかで、思考や感情を刺激し、固定観念や関係性を揺さぶります。この分科会では、さまざまな背景をお持ちのみなさんが集まり、ジブンゴトの切実な「問い」から出発し、互いの思考と問いをフラットにかさねていく、楽しく創発的な場を試します!場をまとめるいつものやり方をあえて止め、それぞれの気づきを大切にします。

問いや思考の重ね合いそのものが、貢献感をうみ、居場所を作り、やがて活動やビジネスが発展し、生活が豊かになっていくきっかけになる体感を味わいたいと思います。

コラボレーション 議論メシ のみなさん

「議論メシ」は『ライフピボット』著者 黒田悠介さん主宰の、問いでつながるコミュニティ。メンバーが立てたジブンゴトの問いのもとに集まり議論するのがメインの活動です。年間200以上のテーマで対話の場が開かれる、4年以上続くオンラインとオフラインの総合型コミュニティです。<https://www.gironmeshi.net>

[担当] 藤掛素子 (明治大学ボランティアセンター)

C-5

定員:40名

対象:参加と協働を促す活動の現場での「学び」に課題意識を持っている方

[学ぶ] 活動に埋め込まれた「学び」の実践を振り返る

市民の参加と協働を促す活動の現場において、活動者の口からしばし発される「たくさんの学びがありました」という言葉。また、主催者がこの言葉を聞くと、自分が提供したプログラムに対する評価として受け止めるきらいがありますが、本当にそれでいいのでしょうか。

この分科会では、活動プログラムで生まれた活動者とコーディネーターそれぞれの偶発的な学びや予期しない好ましい変化に着目します。話題提供者が振り返る実践事例を参考にしつつ、参加者自身もこれまでに提供した活動プログラムを振り返る内容を展開します。

話題提供者 開澤 裕美さん (中央大学ボランティアセンター コーディネーター)
齋藤 尚久さん (杉並区教育委員会 社会教育主事 (社会教育士))
矢島 万理さん (国土緑化推進機構)

学び手 遠山 昌子さん (生き方のデザイン研究所 コーディネーター)

進行 土崎 雄祐さん (とちぎ市民協働研究会 専務理事)

実行委員紹介

足立 陽子 (東京都人権啓発センター)
上田 英司 (日本NPOセンター)
小原 宗一 (北区社会福祉協議会)
開澤 裕美 (中央大学ボランティアセンター)
鹿住 貴之 (JUON(樹恩)NETWORK)
菊池 哲佳 (多文化社会専門職機構)
熊谷 紀良 (東京ボランティア・市民活動センター)
栗原 穂子 (ぼらんたす)
齋藤 尚久 (日本社会教育士会)
佐藤 正枝 (日本社会福祉士会)
佐藤 美恵 (ぼらんたす)
杉浦 健 (共働プラットフォーム)
仙波 愛優佳 (和光市社会福祉協議会)
園崎 秀治 (オフィス園崎)
竹田 純子 (龍谷大学ボランティア・NPO活動センター)
葛 直宏 (日本生活協同組合連合会)

土崎 雄祐 (とちぎ市民協働研究会)
遠山 昌子 (生き方のデザイン研究所)
西川 正 (ハンズオン!埼玉)
橋詰 勝代 (高島市社会福祉協議会)
早瀬 昇 (大阪ボランティア協会)
疋田 恵子 (杉並区社会福祉協議会)
藤井 美香 (横浜市国際交流協会)
藤掛 素子 (明治大学ボランティアセンター)
松尾 慎 (東京女子大学/Villa Education Center)
宮城 智広 (鶴ヶ島市社会福祉協議会)
明城 徹也 (JVOAD)
武藤 祐子 (千代田区社会福祉協議会)
文珠 正也 (日本協同組合連携機構 (JCA))
矢島 万理 (国土緑化推進機構)
後藤 麻理子 (日本ボランティアコーディネーター協会)

協力

公益社団法人日本社会福祉士会
日本生活協同組合連合会
特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)
一般社団法人多文化社会専門職機構 (TaSSK)
東京ボランティア・市民活動センター
社会福祉法人大阪ボランティア協会
特定非営利活動法人ハズオン!埼玉
一般社団法人生き方のデザイン研究所
特定非営利活動法人ばらんたす

後援

社会福祉法人全国社会福祉協議会 社会福祉法人中央共同募金会 認定特定非営利活動法人日本NPOセンター
認定特定非営利活動法人国際協力NGOセンター 公益財団法人日本YMCA同盟 一般財団法人自治体国際化協会
一般財団法人児童健全育成推進財団 一般社団法人環境パートナーシップ会議 ESD活動支援センター
認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 特定非営利活動法人日本病院ボランティア協会



認定特定非営利活動法人

日本ボランティアコーディネーター協会

Japan Volunteer COORDINATORS Association

参加の力を信じよう! ~市民が主役の豊かで創造的な社会をつくる

市民が主体的に問題解決に取り組む社会を実現するために、一人ひとりの社会参加意識を高め、積極的に行動することを応援する専門スタッフとして「ボランティアコーディネーター」の存在はきわめて重要です。しかし、十分に社会的認知を得ていないことから、多様な分野で活動するボランティアコーディネーターの専門性の向上と社会的認知を進め、専門職としての確立を図ることを目的に、2001年1月に設立(同年8月にNPO法人化)いたしました。

JVCAの事業・活動の5つの柱

- 1 ボランティアの魅力と可能性を伝える
- 2 ボランティアコーディネーションの機能を普及させる
- 3 ボランティアコーディネーターのネットワークの確立
- 4 ボランティアコーディネーターの専門性の向上
- 5 ボランティアコーディネーターの社会的認知の促進

取り組んでいる事業

1 情報の収集と提供活動

- ① ニュースレターの発行
- ② メールマガジンの発信
- ③ ブックレット・書籍の発行
- ④ ホームページ・facebookの運営
- ⑤ 文献・データの情報収集



2 全国研究集会の開催

- ① ボランティアコーディネーターたちが一堂に会する <全国ボランティアコーディネーター研究集会 (JVCC) >の開催



3 検定システムの実施

- ① ボランティアコーディネーションカ 1級・2級・3級検定試験・直前研修の実施
- ② 合格者への情報提供
- ③ 1級・2級合格者のつとへの協力

4 研修・セミナーの開催

- ① ボランティアコーディネーター 初心者向け研修の開催
- ② ボランティアコーディネーター 実務者向け基礎・応用研修の開催
- ③ 研修講師の派遣

5 調査・研究活動

- ① JVCA会員・検定合格者のニーズ調査の実施
- ② グッドプラクティス事例の収集および認定
- ③ ボランティアコーディネーションに関する実務研修体系についての研究

6 ネットワークの推進

- ① 会員メーリングリストの運営
- ② CoCoサロンの開催支援
- ③ ボランティアコーディネーター基本指針の配布・普及
- ④ 国内外の関係団体との連携・協働

事務局 認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-13 末よしビル別館 30D

TEL03-5225-1545 FAX03-5225-1563

E-mail:jvca@jvca2001.org URL:https://www.jvca2001.org /